

- *クリスマスは神の愛がはっきりと私たちに示された出来事であると言える。「神の愛」とはどのような愛か。「愛」には3種ある。条件付きの「もしも愛」。次に理由付の「だから愛」。これらの愛は、与える人の希望や欲望がかなうかどうかで、相手への愛が与えるか否かが決まるというものだ。裏を返せば、条件や理由が無くなったら愛さないという愛である。これは本当の愛ではない。
- *そのような条件や理由がない愛、見返りを求めない愛、無償の愛がある。「それでも愛」である。神の愛がこの愛である。別のことばでいえば、「その人の存在そのものを尊ぶ愛」である。神は「私の目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している。」（イザヤ43：3）と言われる。神は平等にどんな人でも愛しておられる。どんなに失敗しても、罪を犯しても、弱いところが一杯あっても、神は愛して受け入れてくださるのである。それは、神が私を良いものとして造られたからである。
- *「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。」（ヨハネ3：16）イエス・キリストはもともと天の父なる神のところにおられた方であるが、天から下って来て、この世に人として生まれたのである。これがクリスマスであり、神の愛の現れなのである。聖書の神はどういう方か、なかなかわかり難い。しかし、御子イエスが来られて、見える形で、具体的な形で神を表してくださった。私たちにとって大きな恵みであった。
- *「それは、御子を信じる者がひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」（3：16）「滅びる」とは「いのちが無くなる」ということであり、いのちのものは神なので、神とのつながりが無くなるということである。逆に「永遠のいのちを持つ」とは、永遠にいのちが無くならないということ、すなわち、神とのつながりが永遠に続くという約束である。
- *父なる神が御子を世に送った目的は、すべての人が救われることであった。そして、その方法は十字架につけることしかなかったのである。それは、全く罪のない御子が私たちすべての人の罪を背負って死んでくださったことによって実現するのである。「神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子によって世が救われるためである。」（ヨハネ3：17）御子は暗いこの世に光をもたらし、救いの道を示してくださった。神の愛のプレゼントであるクリスマスを感謝し、心から喜ぼう。